

柔道



講道館

令和七年 八月一日発行 第九十六巻 第八号



昭和19年1月、女子部昇段式
南郷次郎講道館2代館長から段証書を受け取る福田敬子氏(中央)

8

2025 August
vol.96 No.8
月号

黒帯 白帯

(投稿欄)

嘉納治五郎先生 撰文

「福田八之助の碑」

の説明板設置

山本光彦

埼玉県西部に位置し、秩父郡に属する長瀬町に建立されている故・福田八之助先生の「頌徳碑」(昭和5年建立)は、重要な歴史的碑であるにもかかわらず、説明板の老朽化により柔道界や柔道整復師から忘れられるのではないかと懸念があった。そこで、埼玉県柔道整復師会が新たに説明板を設置したので報告する。

2025(令和7)年3月16日(日)、説明板の除幕式が多宝寺で開催された。当日は季節外れの雪が降る悪天候のため、長瀬町の古刹であ

る多宝寺の一室を借りて執り行われた。中島政司埼玉県柔道連盟会長、大河原晃埼玉県柔道整復師会会長、長尾敦彦日本柔道整復師会会長をはじめ、多くの関係者が参列した。

式典では、大河原氏が「この地を柔道界・柔道整復師の聖地とした」と建立の経緯を説明した。中島氏は「現在柔道は世界のおよそ200カ国で行われている。日本発祥のオリンピック種目であり福田先生が嘉納先生を指導していなければ、今の柔道はない。このことは柔道界でも広くPRしていきたい」と述べた。また、長瀬町の大澤タキ江町長、長尾氏も祝辞を述べ、福田先生の功績や柔道界への貢献を称えた。さらに、女子柔道の先駆者である故・福田敬子先生(福田先生の孫娘)の功績も紹介した。

なお多宝寺には福田敬子先生の碑も建立されており、桔梗の寺」とし

て知られている。長瀬町は、岩畳や秩父赤壁など国指定の名勝・天然記念物に囲まれた風光明媚な地で、福田先生の頌徳碑があるこの場所は、柔道整復師と柔道界の原点といえる。読者諸賢にも、桔梗の花が咲くころに是非訪れていただきたい。

碑文と説明板の内容

【碑文】

福田先生之碑
先生諱千代吉本姓持田武藏國秩父郡本野上村袋里人軀幹
壯偉資性篤實年二十四從江戸磯正智學天神真楊流柔術六
年其術大進儕輩推服三十一歲任講武所師範有故改姓福田
諱正儀稱八之助養從弟信九郎繼持田

氏公餘開武樹日本橋

元大工街教授子弟以至幕府之末明治十二年八月十四日歿

享年五十二葬駒籠吉祥寺塋域頃嗣子柳吉遺妻多津次女由

幾孫永吉相謀樹秩父八幡神社境外屬文治五郎治五郎曾

承先生之教者誼不可辭乃不顧不文敢敘梗概云

昭和五年九月十四日
講道館長 正三位勲一等嘉納治五郎 撰
從二位勲三等子爵 山口弘達 書

児玉町

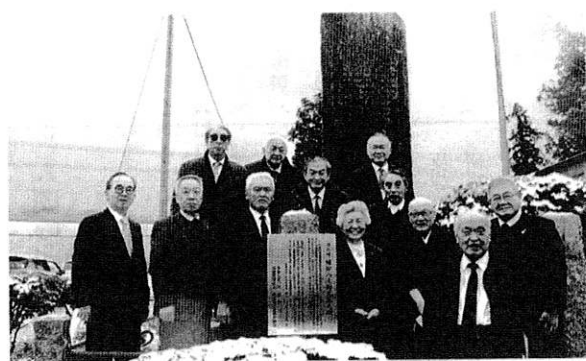
石工内田保五郎 鐫

【説明板の内容】

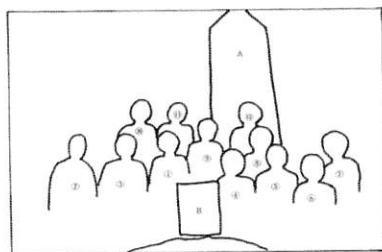
頌徳碑 福田八之助先生之碑

この碑は講道館柔道の創始者である嘉納治五郎(一八六〇―一九三八)が、初めて柔術(天神真楊流)を学んだときの師匠である福田八之助を

顕彰するため、嘉納の尽力のもと、昭和五年(一九三〇)に福田の生地である長瀬町八幡神社境外に建てられたものである。以下碑文の内容の一部を記す。



福田八之助の碑と説明版の前での記念写真
写真提供:埼玉新聞社(掲載日2025年3月19日(水))



八之助八之助の碑
文(公刊)埼玉県柔道連盟会
解説説明板
①埼玉県柔道連盟会長 山本 光彦 撰
②(公刊)埼玉県柔道整復師会会長 大河原 晃 撰
③(公刊)日本柔道整復師会会長 長尾 敦彦 撰
④埼玉県長瀬町 大澤タキ江 撰
⑤多宝寺御住持 内田 保五郎 撰
⑥(公刊)日本柔道整復師会会長 田代 高夫 撰
⑦(公刊)山形県柔道整復師会会長 若山 孝彦 撰
⑧(公刊)群馬県柔道整復師会会長 坂本 昌弘 撰
⑨(公刊)茨城県柔道整復師会会長 田嶋 忠雄 撰

福田先生、文政十一年(明治十二年(一八二八―一八七九)、実名は千代吉、本姓は持田という。
武蔵の国 秩父郡 本野上村 袋里(現在の長瀬町大字本野上)の人である。二十四歳のとき、江戸に出

て、天神真楊流柔術の磯正智に学ぶこと六年間。三十一歳のとき、講武所の師範となる。故有って、姓を福田と改め、名は正義、八之助は通称である。(以下略)

講道館長 嘉納治五郎 撰文

子爵 山口 弘達 書

令和七年三月 設置

公益社団法人 埼玉県柔道整復師会

(埼玉県柔道整復師会専務理事・

総務部長)



表紙解説

写真は、昭和14年1月29日に寒稽古納式における昇段式の様子です。南郷次郎講道館2代館長(左)から福田敬子(中央・戦前は梅子、戦後に敬子へ改名)へ、女子初段の段証書が授与された場面です。南郷館長の隣には綿貫範子女子部長(嘉納治五郎師範の長女)、次いで鶴澤孝女子部主事の姿が見えます。

講道館柔道の歴史を緋けば、必ず耳にする柔術流派が天神真楊流と起倒流です。嘉納師範が直接師について学んだ2つの流派は、柔道の源流とも言えます。師範が初めて柔術を学んだのは天神真楊流の福田八之助で、敬子はその令孫にあたります。福田の生誕地・埼玉県には、同氏の頌徳碑が建立され、今年3月には埼玉県柔道整復師会によって碑文の説明板が設置されるなど、現代においてもその功績が広く認められています(本誌「黒帯白帯」参照)。

寒稽古納めにあたり、南郷館長の次のような言葉を女子部の修行生に送っています。

人間の記録

嘉納治五郎

私の生涯と柔道

嘉納治五郎の人物・識見、柔道とは何か、講道館柔道の発展の経緯、嘉納治五郎の偉大な教育家としての抱負とその実力等、嘉納治五郎の研究及び日本の近代化の推移等の研究には見逃せない資料です。



三一六頁ページ

一、九八〇円(税込)

嘉納治五郎著 日本図書センター刊

◎お申込・お問合わせ先

東京都文京区春日一六一三〇

講道館総務部

〒112-0003 電話 〇三三三八一一七二五五

「寒稽古は実行力を養ふものである(中略)定日を皆勤しようとすれば多少の困難苦痛と戦はなければならぬ。わがま、を克服して『何につ!』と頑張らなければならぬ。皆さんはこのたびの寒稽古でこれを体験されたのである。これこそ人生に於ける貴い体験である。只今授けた皆勤証書は之を勝利のしるしなりとして一生修養のたすけとせられんことを望むのである」。

南郷館長は敬子ら女子部の修行生に対し、寒稽古は人生の縮図であり、この困難を乗り越えて掴んだ勝利は、生涯自分の力になるという講話をされました。館長自らの言葉が女子部の修行生に感銘を与えたことは想像に難くありません。その中の1人である敬子は、戦後渡米してサンフランシスコに桑港女子柔道クラブを創設し、海外での女子柔道のパイオニアの1人として、斯道の国際普及に貢献しました。南郷館長は「厳しい稽古で心身を鍛錬する意味」を、折に触れ修行生に説き、士気の作興に努めていました。

次号は南郷館長時代に作られた女子護身法についてみていきたいと思います。

(桐生生)